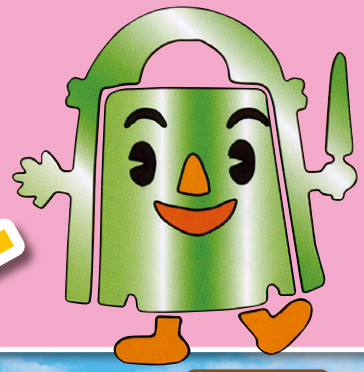


わかりやすい!
島根県の
埋蔵文化財情報が
満載!

ドキ土器

まいぶん



まいぶんくん

No.65

2019.07

島根県の埋蔵文化財情報誌

特集

石見の城館跡



浜田城主要部

CG復元：三浦正幸
CG制作：株式会社エス



埋没していた出丸南面の石垣



浜田城の鯺・家紋入り瓦



築城 400 年を迎える 元和期の城

① 浜田城跡 (浜田市殿町)

浜田城跡は、元和5年(1619)、当時伊勢国松坂城主であった古田重治が石見国浜田に転封し、翌年から築城が開始された近世城郭です。今年が浜田開府400年の節目の年となり、城山公園の整備が進んでいます。

整備前に浜田市教育委員会により発掘調査が実施され、出丸の調査では土塀の基礎や埋没した石垣が検出されました。土塀基礎は、石垣の内側に置かれた石列で、その規模から土塀基礎の幅は90cm程度と推定できます。また控柱の痕跡がなかったことから、自立式の土塀が想定されます。埋没していた石垣は出丸南面の石垣で、近代以降の公園整備による破壊をまぬがれていました。

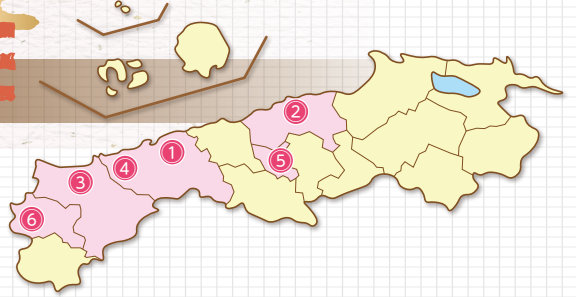
調査では軒瓦をはじめとする大量の瓦も出土しており、遺構と遺物の双方から浜田城の様子が明らかになってきています。

(写真等は浜田市教育委員会提供)



特集

石見の城館跡



近年、島根県西部(石見地域)では城館跡の発掘調査が多く行われています。中世石見には国人領主が複数知られており、山城や館も数多く存在しています。山城は時代や地域により城の構造や規模が異なっており、ここではそのいくつかを紹介します。

② 静間城跡(大田市静間町)

山上の居館

静間城跡は、一般国道9号(大田静間道路)建設に伴い平成28年度に発掘調査が行われました。戦国時代前半の居館を兼ねた山城の様子が明らかになりました。

静間川沿いの標高27mの低丘陵上に、郭が2箇所あり、大規模な建物や土塁が見つかりました。防御施設である堀切や竪堀は確認できませんでした。建物は8棟見つかリ、規模が大きな建物は4×10mほどの大きさです。遺物には備前焼や美濃焼の国産陶器の他に青磁や白磁などの中国製品も出土しました。遺物から15世紀後半から16世紀前半を中心とした山城と考えられます。



調査状況



土塁

③ 七尾城跡(益田市七尾町)

石見の雄 益田氏の居城

七尾城跡は、益田平野と日本海を望む標高約118mの七尾山丘陵上に築かれた、益田氏の居城です。南北約600mに及ぶ大規模な山城で、大小40余りの曲輪で構成されており、石積井戸のほか、防御遺構としての堀切や土塁、畝状空堀群が現存しています。

発掘調査は、平成4~9年にかけて、本丸・二の段を中心に行われ、御殿と推定される礎石建物のほか、大型倉庫や瓦葺櫓門と考えられる礎石建物、冠木門、築地塀などが見つかっています。特に二の段北端で発見された2棟の礎石建物は、山上にあって庭園を備えた会所跡として注目されます。出土遺物の大半は16世紀中頃~後半のもので、中国製の青花や白磁の碗・皿のほか、大量の土師器皿が出土しており、酒宴を伴う儀礼も行われていたことがうかがえます。(写真等は益田市教育委員会提供)



本丸跡北端の礎石建物



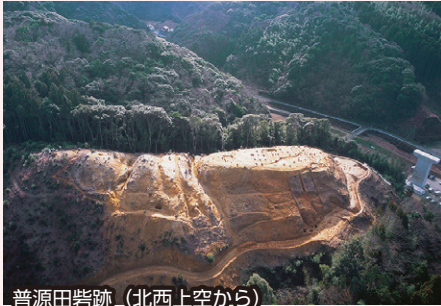
復元想像図

④ 普源田砦跡 (浜田市三隅町)

戦国時代の山城を大調査!

普源田砦跡は、一般国道9号(三隅益田道路)建設に伴い、平成30年度に標高約65mの丘陵を発掘調査しました。調査の結果、中心となる郭で、掘立柱建物や竪穴建物が計画的に配置されていることや、高低差が約5mある大規模な堀切、広範囲に廻らせた竪堀など数多くの山城遺構を確認しました。遺物は16世紀前半を中心とした陶磁器や金属器、茶臼、硯などが約500点出土しました。

県内で戦国時代の山城跡を全体的に発掘調査した例はなく、郭での生活や、防御施設の規模や配置など、小規模城郭の認識を改める発見となりました。また、普源田砦跡のある浜田市三隅町岡見は、中世に現在の浜田市西部を支配した三隅氏と、益田市域を支配した益田氏が争った所で、この地域の歴史を紐解く資料といえます。



普源田砦跡 (北西上空から)



櫓跡



⑤ 丸山城跡 (邑智郡川本町三原)

小笠原氏の居城

丸山城跡は、標高482mの円錐形の優美な山に小笠原氏によって築かれた山城です。平成2~7年度にかけて川本町教育委員会により発掘調査が行われました。山頂一帯には12箇所の郭が築かれ、当時最先端の石垣を多用し、防御施設がほとんど見られないという特徴があります。礎石建物やカマドなどが見つかリ、「山頂の館」として威容を誇っていました。

遺物には備前焼や美濃焼の国産陶器の他に16世紀後半の青花など中国製品も出土しました。文献から天正期に築城され、小笠原氏が短期間で出雲神西に去り、使用されなくなりました。(写真は川本町教育委員会提供)



本丸西大門跡



三の曲輪



⑥ 津和野城跡 (鹿足郡津和野町)

中世から近世に続く山城

津和野城は標高367mの霊亀山上に築かれた山城です。築城は吉見頼行が永仁3年(1295)から行なつたと伝えられます。吉見氏が築いた中世城郭は慶長6年(1601)に入城した坂崎直盛によって、総石垣造りの近世城郭へ大規模に改修されました。元和3年(1617)に亀井政矩が4万3千石の大名として入城後は、亀井氏の居城として明治維新まで続きました。津和野町では2017年から津和野城出丸の石垣解体修理工事を行っています。石垣解体に伴う発掘調査では裏込石を伴った石垣内部の構造が確認されました。(写真は津和野町教育委員会提供)



雲海に浮かぶ城山



発掘調査で検出した裏込め石



山頂部の石垣

埋蔵文化財調査センター講演会

「明らかになった古墳時代の集落とマツリ」

～大田市内の最新の発掘成果を中心に～

3月16日に大田市あすてらすで、大田市内の古墳時代を代表する集落遺跡・祭祀遺跡である鳥井南遺跡、平ノ前遺跡、御堂谷遺跡をテーマとした講演会を開催しました。

はじめに大田市教育委員会の中田健一さんの講演報告があり、大田市の古墳時代の集落や祭祀の特徴を紹介されました。

つづいて発掘調査担当者らによる平ノ前遺跡と御堂谷遺跡の報告が行われ、各遺跡の特徴や歴史的背景など発掘調査の成果や他地域と交流について話がありました。

最後に展示した出土品の解説もあり、約70人が聞き入りました。



刊行案内

平成30年度刊行調査報告書！

発掘調査報告書を10冊刊行しました。

弥生時代の集落遺跡である常楽寺柿木田古墳群(出雲市)や松林寺遺跡(大田市)、御堂谷遺跡(大田市)、古代の役所である出雲国府跡(松江市)、中世の山城である静間城跡(大田市)、中世の集落遺跡である田淵遺跡(江津市)や大國地頭所遺跡(大田市)、高浜I遺跡(出雲市)、第二次世界大戦時の鉱山である久村鉱山跡(出雲市)などの調査成果をまとめています。

報告書は県内の図書館等に配布したほかPDFデータは全国遺跡報告総覧のホームページで閲覧可能です。



まいぶん 出土遺物カード 12



平ノ前遺跡出土のコップ形須恵器

平ノ前遺跡(大田市静間町) コップ形須恵器

大田市平ノ前遺跡から出土したコップ形須恵器です。平ノ前遺跡は縄文時代から江戸時代にかけての遺跡で、コップ形須恵器は古墳時代後期の祭祀が行われた水路などから出土しました。水路からはこの他、土師器や須恵器などの大量の土器や、装飾品である金銅製歩揺付空玉などが出土しています。

コップ形須恵器は、県内では石見地域の5遺跡でそれぞれ1点ずつ出土しており、そのうち3点は古墳や横穴墓など地域の有力者の墓に伴って出土しています。

平ノ前遺跡では少なくとも5点のコップ形須恵器が出土しており、古墳時代後期の祭祀などで使用されたと考えられます。

島根県の埋蔵文化財情報誌

ドキ土器

まいぶん

No.65 発行:令和元年7月

編集・発行
島根県教育庁埋蔵文化財調査センター
〒690-0131 松江市打出町33番地
TEL:0852-36-8608 FAX:0852-36-8025
E-mail:maibun@pref.shimane.lg.jp
<http://www.pref.shimane.lg.jp/maizobunkazai/>

